

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念及びケア理念を見やすい場所に提示していることでその都度確認することができる。会議記録にも記載しており定期的な振り返りができている。	理念を見やすい場所に掲示し、職員に振り返りを促しています。年々介護度が進み重度化傾向ですが、出来ていたことを職員と一緒にすることで利用者の達成感を維持するように心がけています。パンフレットに記載され、町立ホームページでの事業所紹介されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により集まりには参加できていない。町内会の会議には職員が参加し、意見交換している。	職員は町内会会合参加や回覧板等で情報交換を行っています。利用者は地域の美容室での交流や100円ショップでは店員と会話をしながら買い物をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により地域の方との交流は難しいが、なじみの理容室や食堂へも出向いて理解を得てきた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面での開催もあったが、2か月に一度、会議を行い意見交換や現状の報告を行うことが出来ている。	運営推進会議は、利用者家族代表、ボランティア、有識経験者、町内会役員、行政担当、地域包括担当の参加を得て開催しています。出席を得ての会議と書面開催も行い利用者の状況、行事、研修等報告し適切な運営に努めています。議事録は家族全員に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場福祉課高齢者福祉担当や包括、保健推進担当含め日頃から連絡をとることができている。理学療法士の方に来所してもらい、リハビリの指導をしてもらっている。	行政とは、運営推進会議に出席を頂き、利用者状況や事業所の現状に理解を得ながら良好な関係構築が図られています。希望する利用者には町の理学療法士によるリハビリの指導をお願いしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や法人内研修を通じ身体拘束をしないケアの知識を身につけ、日常的にも身体拘束につながるようなことがないか、十分注意し取り組んでいる。必要な居室にのみ、ご家族の同意を得たうえでセンサーコールを使用している。併設事業所が休みの時に限るが、外部からの侵入を防ぐため、防犯上やむを得ず玄関の施錠を行っている。	身体拘束・高齢者虐待防止委員会は統括者、管理者、看護師、ケアマネで構成しており、デイサービスと合同で年4回会議を開催し、研修は外部講師を招いたりして実施しています。不適切ケアで自己覚知があるのか、スピーチロックの言い換え、クッション言葉を用いて言葉による禁止用語を使わないように指導を行っています。利用者を第一に考え利用者を急がせない、利用者のペースで支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員は法人内研修を通じ、虐待について学び、理解を深めている。職員間でも目に見える暴力だけでなく、言葉遣いや身体の衛生、精神的苦痛を与えていないか等細かく注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	対象となる方がいないため勉強会は開催していないが、今後のためにも学習会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や内容変更時など必要な時には書類を使用し説明を行い、理解していただくように努めている。契約等に携わる職員は内容を理解しているが、ほかの職員はあまり目を通すことがなく、内容に関して説明しておくことが必要。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況報告と合わせてご家族からの要望を確認するよう努め、改善すべき点は早急に行うよう心掛けている。面会に来られないご家族に関しては、定期的に電話などで状況を報告を行っている。	コロナ感染予防の為、面会禁止や面会制限を設けて、その都度状況説明を行い家族の協力を得ながら実施しています。現在は、事前予約で事務室やデイサービス休日はデイサービスフロアでの面会時、受診の状況・結果報告で健康状態などを電話で連絡をし意見・要望を把握しています。うらら花日誌通信や運営推進会議議事録、ブログ等で利用者の様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や事務局に相談できる環境づくりを設けているほか、定期的に個人面談を行い短時間ではあるが聞き取りを行っている。	毎月のスタッフ会議や日常の業務の中で職員の意見を聞いたり、年1回の総括者との面談で職員の自己目標達成評価と希望等を聞き取っています。内部研修は1ヶ月に1回行っており、職員が講師となり質疑応答にも対応できるよう自己努力を促しスキルアップに繋げ意識向上を目指しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況に合わせた勤務体制や環境づくりを行っている。事前に休み希望を聞き取りしたうえで勤務表に反映し、ほぼ希望通りの勤務表を作成している。また、個々の力量に合わせた業務を行うことで負担にならないように且つ、やりがいを見いだせるような配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でもあり、外部の研修参加は難しいが、毎月、内部研修を通してスキルアップを図っている。毎月、交代で職員が課題に沿って研修を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流の機会を設ける事は出来なかった。他施設との情報の交換は連絡を取り合い行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して暮らしていけるよう、事前に担当ケアマネからの情報を細かくもらったり、職員間で情報を共有しました、不明な点などがあればご家族や本人に聞きながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの開始段階から面会時においてもご家族の要望や思いに傾聴するよう心掛け、施設に対する不安等を軽減できるよう努めてきた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に必要なと思われる支援の方法を見極めながら、サービスの計画の立案・提供までを実施することと併せて、ほかのサービスを合わせることができないかを関係機関と調整している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をするうえでその方がどんな支援を必要としているのかを把握し、過剰な介護はせずにその人らしさの生活を送れるように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時に等に、現況を報告してきた。コロナ禍で面会時間の制限をしているが、絆を大切に会える時間を設けている。ご家族にも要望を聞き入れをしてきた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出も制限されているが、友人に会いに行ったり、なじみの場所に足を運んだり出かけている。馴染みの場所に出向く事で昔の事を思い出し、気分転換を図る事も出来ている。	希望する利用者には自宅や知人の家の訪問、近所に出掛けたりしています。馴染みの美容院で近況の話や昔話等の交流があり利用者の笑顔が増えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の相性や能力に合わせた作業等を考えたり、くつろぐ際のそれぞれのソファの座る位置などについても考えて支援しているほか、利用者間でトラブルが起こりそうなときは、フロアスタッフが間に入ることで関係性の悪化とならないように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの退去者について、サービス終了後は直接的な関係は途絶えてしまっている。相談等ができればできる限り対応していきたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの好む暮らしや食の嗜好、買い物などについて把握し、可能な限り希望に添えるよう支援している。	利用者がどの様に過ごしたいのかを日々の生活の中から聞き取りながら現状の状態を考慮して希望に沿い、利用者自身の残存能力維持継続が出来るよう支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろん、ご家族からの聞き取りや、在宅時・他施設利用時の担当ケアマネジャーからの情報をもとに、生活歴やなじみの暮らし方などの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体・精神状態を日々の申し送りや業務の引き継ぎにおいて把握し、個々に合わせた支援ができるよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の言動や行動、ご家族からの要望やスタッフからの意見や情報等を踏まえて、本人の生活の質を重視した介護計画の立案を行っている。また、毎月の会議においても、スタッフの意見やご家族からの要望などを共有できるよう努めている。	見直しは基本6ヶ月ごとに、利用者の変化があった場合はその都度介護計画を作成しています。ケアマネジャーは利用者の生活の質を重視し担当職員や全体的に聞き取り、ケア会議で意見交換を行い介護計画に反映し利用者・家族の意向を聞き取り作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンでの個人記録やヒヤリハット、申し送り等で個々の言動や様子を日々把握しているが、ケアの実践の有無の把握は難しく、記録が不十分なこともある。改善や工夫が必要な時は会議等で検討し、実践している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの個々に応じた柔軟な対応を行うよう努めている。少しでも変化があれば会議等で話し合い検討している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で利用者様が地域の方との交流の場所に向く事は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ病院や歯科医院、保健師などとも関係を築き、月2回の訪問診察や定期受診に出かけることで利用者の状態に応じた柔軟な対応を行っている。また、受診時に的確な情報を伝えられるよう、努めている。	希望する係りつけ医の受診は事業所で支援していますが、町外病院や入院時は家族が行っています。月2回の訪問診療や法人の看護師により職員へのアドバイスや利用者の健康管理を行い家族の安心へと繋げています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師への連絡体制(24時間オンコール体制や連絡ノート)、提携している訪問診療機関の看護師への連絡体制の確立もあり、緊急時における体制づくりについても整備されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要時には経過等日常生活の変化など質問されたことを伝えられるよう、職員間で情報共有、町内各位医療機関との情報交換や調整を行い安心して治療ができるよう、努めている。 CA70:F106		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している利用者様のケアは、ご家族や本人の意向をきき、職員間でも話し合い、今後の過ごし方について検討し支援を行ってきた。終末期については看取りを希望されているご家族は少ないが、医療機関との連携なども確認しておく必要がある。	重度化した場合や終末期のあり方については入居時に説明しています。重度化や終末期に向けた指針は家族に送付しています。看取りの内部研修を行っています。現在は看取りの希望はありませんが、医師の指示を受け家族の意を汲み取りながら事業所で出来る限りの支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が講師になり年に2回内部研修で、緊急時の対応を学んできて、もしもの時に備えています。又、夜間の緊急時の連絡体制も整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立会いの下、避難訓練を実施している。コロナ禍であることから、利用者や職員全員参加での実施は行えていないことや、夜間一人での避難訓練・自治会と合同の訓練などは今後行っていく必要がある。	消防立会いのもと年2回、日中想定で地震からの火災と夜間想定を併設のディサービスと合同の避難訓練を実施しています。コロナ感染予防のため、自治会参加は出来ませんが、今後は地域住民の参加をお願いし避難訓練を予定しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けを意識し、利用者様の誇りやプライバシーを侵害しないよう配慮している。	職員は利用者の心理面や介助される側に目線を置き利用者のより良い介助提供が出来るように心掛けています。私語を慎み利用者が中心であることを意識すよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話などの中で要望や困りごとなどに耳を傾け、できる限り自己決定できるような関わりを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援しているが、起床や就寝は個々によっても異なり、なるべく本人のペースで支援を行ってはいるが業務を優先してしまいがちなところがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が決めるのではなく、選べる方にはなるべく自分で衣類を選んでいただいております。自分で決めるのが難しい方に、職員と一緒に選んでいます。時折髪の毛や衣類が乱れたままになっていることがあり、配慮が必要。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付けについてはできる限り行っていただいている。また、今年度は食レクの機会を増やし、盛り付けや食材を切るなどその方に合わせたお手伝いを支援しているが、もっと日常生活での支援をしていくことが課題。	管理栄養士が作成した献立を基本に寒暖時や体調変化に合わせて提供するように努めています。食品ロスを考慮し週2回(月・木)を食材の使い切りを目指し、主婦である利用者の方々の意見を取り入れた献立となっております。出前や外食、中庭での焼肉でノンアルコールを飲む方達もいて宴会の雰囲気を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前、管理栄養士が作成献立を軸にしてバランスの取れた食事を提供している。水分も一日1000ccを目安に勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、夜間の義歯洗浄を実施している。難しい方もいるが、一日三回の口腔ケアを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らの訴えがない方には時間を見て誘導し、トイレでの排泄を支援している。	トイレでの排出を基本に約半分の方が自力自走されています。排泄チェック表や表情・行動等で誘導し利用者の自立支援に努めています。退院後は無理のないよう段階を経てなるべくもとの生活に戻ることに取り組みトイレでの自立に向け支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操実施、食事は野菜を多く使用し乳製品や水分を多く摂ることで自然排便を促している。排便がない時は主治医と相談し、個々の状況に合わせて支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室が他事業所と合同利用になっているため、午後からの入浴となっている。個々の体調に合わせ、週2回の入浴が実施できるよう声掛けの工夫をし支援している。	午後週2回、見守りを基本に殆どの利用者は1人入浴で浴槽浴でゆったりと入浴しています。希望される同性介助は利用者の意向を尊重して行い、シャワー浴を希望される利用者もおり、体調も考慮した配慮を怠らないように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣にあわせて起床や就寝の声掛けを行っている。昼夜逆転とならないよう日中の運動や体操を行ったり、居間や居室の温度や湿度にも注意し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬についてはすぐに確認できるよう、診療報告書とともにファイリングをし保管している。処方の変更があれば申し送りして周知しているが、服薬時の事故報告もあり、注意していきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや習慣が違うため、それぞれに合わせた楽しみ事や役割を支援している。季節の飾りを作ったり、機会は少なかったが天気の良い日には散歩や外気浴なども支援したが、もっと個々の力量を見極め、個別ケアを行えるようにしたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり地域開催の行事には、施設から観覧出来る花火大会のみ観覧し、人の集まる場所への参加は行っていないが、家族を含めた食事会やドライブなどは行っている。利用者様からの要望があれば検討して実施出来る事は行えた。	天気の良い日は花を見ながら散策し利用者の気分転換や日光浴を楽しんでいます。花火大会は駐車場で鑑賞したり、遠方にドライブに出掛けています。また、利用者の希望に応じてカフェや100円ショップ、道の駅で家族と外食したりと楽しい一時を過ごしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は基本的には事務局で行っている。基本、現金や貴重品は自室へは置かない。買い物や外食など使用の時は、都度、渡す形となっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人から手紙が届いた時には本人に渡している。また、荷物が届いた際にはお礼の連絡をし、耳が遠い方には職員が間に入り会話をしてもらえよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるような飾りつけをしたり、温度・湿度管理、臭いなども常に注意を払っている。また、職員間の声の大きさや動きが不快にならないよう、気を付けている。	利用者は季節毎の飾りや町の文化祭展示作品、行事の作品など職員と一緒に楽しんで取り組んでいます。殆どの利用者は日中共同空間でテレビ鑑賞や談笑したり、パズル、塗り絵等をして過ごしています。自発的に毎朝回廊を歩行器等を使用し歩行訓練されている方もいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所にこだわりがある方もいるがなるべく固定せずに座っていただいている。共有空間に限られているため、一人になりたいときは部屋ですごしたり、気の合った方とお話したりと思い思いにすごしていただいている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものを持ち込まれ、なるべく物の位置を変えないよう努めている。泊りの部屋には、ホテルのようなイメージをすることで、できるだけ心地よい空間を提供できるよう心がけている。	居室にエアコンが設置され、暑い日の利用者の安眠や休息が快適に過ごせる環境となっています。使い慣れたタンスや籐の椅子、冷蔵庫などが持ち込まれ家族の写真が飾られ個性がある居室となっています。独創性のあるアート作品作りに没頭し自分の部屋を作り出しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入り口には札をかけ、歩行経路には不要なものを置かない配慮をしている。またタンスには中のものがわかりやすいようにシールを貼っている。			